別記様式第４号

平成30年度 地域貢献研究助成費 実績報告書

平成31　年　3　月　27　日

<table>
<tr><td>報　告　者</td><td>学科名</td><td>デザイン工学科</td><td>職 名</td><td>准教授</td><td>氏 名</td><td>朴　貞淑</td></tr>
<tr><td>研 究 課 題</td><td colspan="6">「地域資源を活かした持続可能なコミュニティの実現に向けて」Ⅱ</td></tr>
<tr><td rowspan="3">研 究 組 織</td><td colspan="2">氏　　名</td><td colspan="2">所 属 ・ 職</td><td>専 門 分 野</td><td>役　割　分　担</td></tr>
<tr><td>代表</td><td>朴　貞淑</td><td colspan="2">デザイン工学科・
准教授</td><td>サステイナブル福祉住環境</td><td>総括･調査･分析･提案</td></tr>
<tr><td>分担者</td><td></td><td colspan="2"></td><td></td><td></td></tr>
<tr><td>研究実績
の概要</td><td colspan="6">日本の高齢化率は27.7%（岡山県の高齢化率は29.6%）を占め、65歳以上の高齢者人口は3,515万人として、本格的な超高齢社会が到来している。日本人の平均寿命は男性80.98歳、女性87.14歳（総務省統計局、平成30年）であり、高齢者や障がい者を含む持続可能な福祉住環境の構築は、極めて重要な意味を持つ。
「持続可能なコミュニティ」は、昔ながらの地域住民同士の「絆」があり、お互いに支え合いながら地域での継続的暮らしを可能とすること、また、産官学民の協働による地域コミュニティを形成することによって、地域に密着した生活の継続性やケアの連続性を保ち、安全、安心な暮らしが可能な地域である。ライフスタイルや将来のライフステージの変化に対応出来る住環境が必要不可欠となる。
そこで、本事業では、高齢化・過疎化が進行する岡山県の状況を踏まえて、地域を構成する各セクターとの関わりに着目し、住み慣れた地域で暮らし続けるためには何が必要なのか、高齢者や障がい者の自立がはかれる環境とは何か、災害に強い地域づくり、共生のユニバーサルデザイン、適切なバリアフリー、アクセシビリティなど、地域資源を活かした持続可能な住環境づくりのあり方について総合的な視点から提案することを目的とした。
岡山県では、一人暮らしの高齢者や高齢者夫婦のみの世帯が年々増加し、過疎、少子高齢化が著しく進んでいる。それに伴い、空き地・空き家も増加し、高齢者や地域住民が住み慣れた地域で、安全・安心、かつ快適に暮らせる生活の質と価値を保った住環境が求められている。前年度に行った岡山県の調査、分析結果をもとに、再確認し、地域に密着した総合的な視点から岡山県の地域資源を活かした持続可能なコミュニティの実現に向けた課題を抽出し、提案を行った。</td></tr>
</table>

※ 次ページに続く

研究実績の概要	本事業は計画に基づいて実施し、その成果として次の３点が挙げられる。 （１） 岡山県における自然、文化、歴史に関するレビューを行い、文化、地域資源、持続可能な福祉住環境に関する検討を行った。地域資源を活かした空き地・空き家の活用が期待できる。空き地・空き家の現状把握及び家屋調査・分類では①生活している、若しくはしているようであり、現状としては建物に支障はない②不在のようであるが、建物に支障はない③老朽化が見られるが、危険度は低い④老朽化しており、建物の危険度は高い⑤廃屋状態で、建物の危険度は非常に高い⑥痕跡等があり居宅跡と思われる空き地⑦自然状態で活用できると思われる空き地である。 （２） 高齢者や障がい者を含めた地域住民が生活主体として、住環境における生活の質と価値、災害に強いまちづくりとして、避難の祭、車イスなどが通行できる有効幅の確保、自分自身が使いやすい防災マニュアルの作成、自分の居場所などについて調査を行った。防災視点を取り入れたマニュアル作成を行い、命を守る持続可能な福祉住環境の構築が期待できる。 （３） 高齢者や障がい者などの移動しやすい共生のユニバーサルデザイン、目的地へのアクセシビリティについて調査を行った。 岡山県における持続可能な住環境にける新しい整備マニュアル作成の住宅、公共施設、移動道路における設備が期待できる。 写真：勝山、犬島、総社市における共生のユニバーサルデザイン、地域資源のコンバージョン、空き地・空き家の現状把握及び家屋調査・分類を行った。
成果資料目録	研究成果を 2019 年度デザイン学会へ論文投稿する予定である。